

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 10 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25463304

研究課題名(和文) 経営意識に及ぼす因子の抽出と病院の経営実態との関連

研究課題名(英文) Extraction of factors affecting the management awareness of the chief nurse and the relevance thereof with the hospital management status

研究代表者

森木 妙子 (MORIKI, Taeko)

高知大学・教育研究部医療学系看護学部門・教授

研究者番号：60380317

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)： 看護師長の経営意識と経営実態との関連を明らかにするため、998名の看護師長に調査を行い共分散構造分析を行った。

その結果、経営実態に看護師長の経営意識がパス係数0.77、決定係数0.60の強さで影響を与えた。看護師長の経営意識に、看護の6つの観測変数の影響はパス係数0.95、決定係数0.91の強さで影響を与えた。影響要因の「分析の活用」や「能力の補完に関する要素」が強く影響を与え、これらの補強が求められている。病院の経営実態は看護師長の経営意識の高さに左右される。その経営意識は看護が関連する6つの因子によって高められることを認識し、看護の力で経営に貢献する看護管理が必要である。

研究成果の概要(英文)： In order to clarify the relevance between the management awareness of the chief nurse and the management status, a structural equation modeling was conducted based on responses to the quantitative survey on 988 chief nurses. As a result, the management awareness had an impact on the management status as expressed by the path coefficient of 0.77 and the determination coefficient of 0.60. The 6 factors of nursing had an impact on the management awareness as expressed by the path coefficient of 0.95 and the determination coefficient of 0.91. The impact factors "utilizing the analysis" and "elements related to complementing one's ability" had the greatest effect; thus, reinforcement of these factors are required. It is vital to recognize that management awareness can be heightened by the 6 factors related to nursing, and that it is necessary to establish a nursing system which contributes to the management based on the strength of nursing.

研究分野：看護管理学

キーワード：看護師長 経営意識 病院経営 共分散構造分析 病床管理 能力の補完 分析の活用 しくみの理解

1. 研究開始当初の背景

(1) 看護師の経営意識と経営の関係について、世小口は「各部署が一丸となって病院経営を行うことが経営の好転につながり、病院内において最大多数を占める看護師が、これまで以上に病院経営について意識すればその影響力は大きい(世小口務他 2011)」と述べている。病院経営を支えるためには、支える存在の看護職に経営意識をもってもらうことが課題である。しかし経営意識には偏りがあり、看護職はどのような経営意識を持てばよいのか全体像が見えない状況で、その必要性ばかりが先行していると考えられる。

(2) 経営意識に関する研究は、看護師を対象にした実態調査が数編みられ、その内容は経営への関心度や病院経営に影響する因子の抽出でとどまっている(山下久美子他 2003、髭陽子他 2004、菅野千佳他 2005、菊池亜希子他 2007)。山下は、経営意識調査項目として 17 項目を独自で作成し、病院経営への関心、病院経営への参画、患者サービスの為の待遇の 3 つのカテゴリーに基づき調査を行っているが、因子の信頼性妥当性は明らかにされていない。経営意識の用語の定義については、菊池による「病院の運営状況への関心」の定義しか見当たらないが、広く解釈することができ中身は不透明である。病棟のヒト、モノを管理する立場にある看護師長が、どのような経営意識を持って行動しているか明らかにされた文献は見当たらない。看護師長は自病棟の経営責任を担い、看護スタッフにも経済的な視点を持たせ病棟を運営していく中心と考える。したがって看護師長の経営能力が問われる現在では、経営意識の高さが病棟運営を良い方向に動かし、看護の質を高め、経営を安定させるという意義を持っている。自らの先行研究からはコスト意識を看護師一人ひとりが持って働き、看護の質

を高めようという考え方が病院経営を好転させると提言してきた。

(3) さらに看護職はコスト意識とともに経営意識も持つことが重要であると考え、経営意識の構造を明らかにすることを目的とした。本研究では経営意識とは経営と経営に影響する因子に関心を向け意識することと定義した。本研究の意義は、組織を有機的に経営できる対策を検討する上での資料として活用し、看護師長に対して病院経営参画へのアプローチの糸口を見出す。さらに病院経営をベースに看護の質を整えるための部門を超えた活動に活かすことができる。

2. 研究の目的

病院経営の安定化と看護の質向上に寄与するために、経営意識にどのような因子が関与しているかを抽出し、それらの因子間の関係を探り病院の経営実態との関連を見出すことである。

3. 研究の方法

(1) 本調査は1000人規模の全国調査である、研究対象者は割り当て標本抽出法により病院の規模と設置主体を層化し、民間病院と公的病院の看護師長とする。

(2) データ収集方法は、質的帰納的方法で抽出した経営意識に関する要素を調査項目としてアンケートを作成する。調査内容は、アンケートの項目は対象者の背景、経営意識に関する項目、経営実態に関する項目を調査し、測定尺度は間隔尺度 5 段階評定法を用いる。

(3) 分析方法

- ・調査項目の内的整合性の信頼性はクロンバック 係数を計算し、調査項目の妥当性は因子分析を行う。

- ・影響要因と経営意識と経営実態の関連を見るために共分散構造分析を行う。

(4) 倫理的配慮として、高知大学医学部

倫理委員会の承認を得る。対象の施設長に研究の趣旨を説明し、承諾を得て研究を開始する。対象者には個人の自由意思を保証し研究に参加できる配慮を行う。データ処理に関し対象施設および個人のプライバシーを保護する。

4. 研究成果

(1) 対象者の概要

看護師長職経験年数を5段階に区分し、1年から2年は216名(23.1%)、3年から5年は225名(24.0%)、6年から9年は189名(20.2%)、10年から19年175名(18.6%)、20年以上129名(13.6%)であった。

看護管理者研修への参加は、ファーストレベル研修が373名(39.7%)、セカンドレベル研修が351名(37.4%)、サードレベル研修が21名(2.3%)、その他の管理者研修が86名(9.1%)であった。

病院の病床規模は、300床以上499床未満が409名(43.6%)、500床以上699床未満が328名(34.9%)、700床以上が201名(21.4%)であった。

病院の設置主体は、民間病院が363名(38.7%)、公的病院が573名(61.0%)であった。

(2) 経営意識に影響する要因の確認

経営意識に影響する要因を確認するために共分散構造分析(AMOS22.0)を行った。推定法は最尤法を使用した。この分析で使用したデータは937名である。全体の回収数は988名。初期モデルの作成は、8つの構成要素を観測変数として開始した。

因子分析の結果をもとに影響要因のみを共分散構造分析し、24項目でモデルが採択された。採択モデルは、8つの因子と24の要素から成り立っている。適合度指標はGFI=0.922, AGFI=0.905, RMSEA=0.053, AIC=988.743である(図1)。

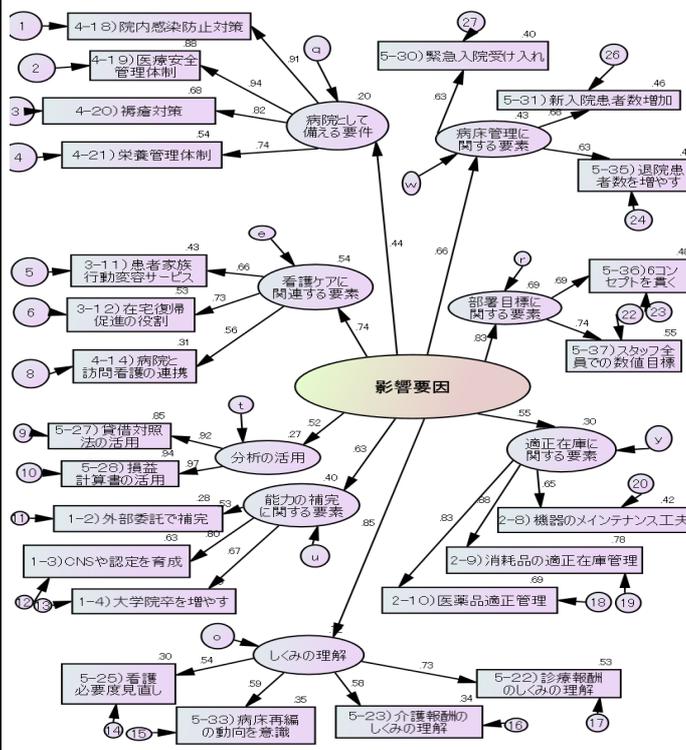


図1 経営意識に影響する要因

(3) 収入に関する経営意識と影響要因

収入に関する5つの観測変数と24の影響要因の観測変数を初期モデルとして共分散構造分析を行った。その結果経営意識は6つの潜在変数と14の観測変数の影響を強く受けていた。その強さはパス係数0.87、決定係数0.76である。適合度は、GFI=0.922, AGFI=0.905, RMSEA=0.053, AIC=988.743である(図2)。

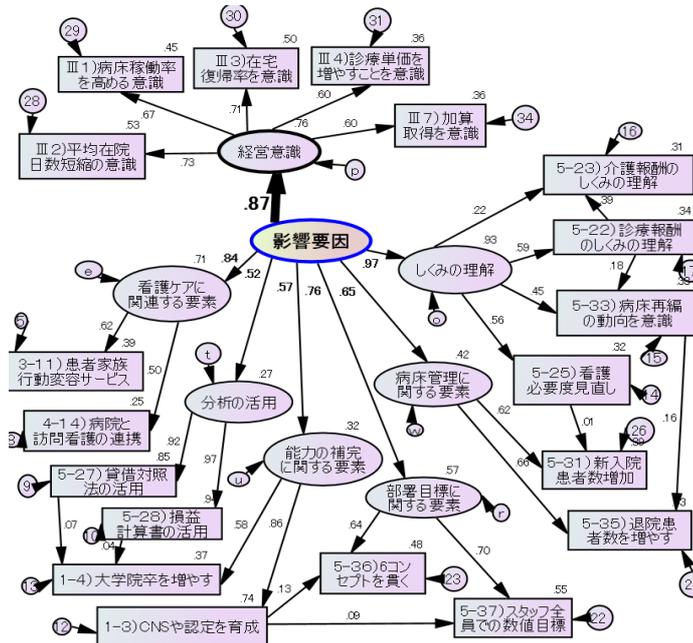


図2 収入に関する経営意識と影響要因

(4) 経営実態と経営意識と影響要因の関連

経営実態と経営意識とそれに影響する要因を初期モデルとして共分散構造分析を行った。その結果経営実態に経営意識(7つの観測変数)がパス係数0.77決定係数0.60の強さで影響していた。経営意識は、影響要因(6つの潜在変数と14の観測変数)の影響をパス係数0.95決定係数0.91の強さで影響を受けていた。適合度指標はGFI=0.927,AGFI=0.903,RMSEA=0.053,AIC=955.334である(図3)。

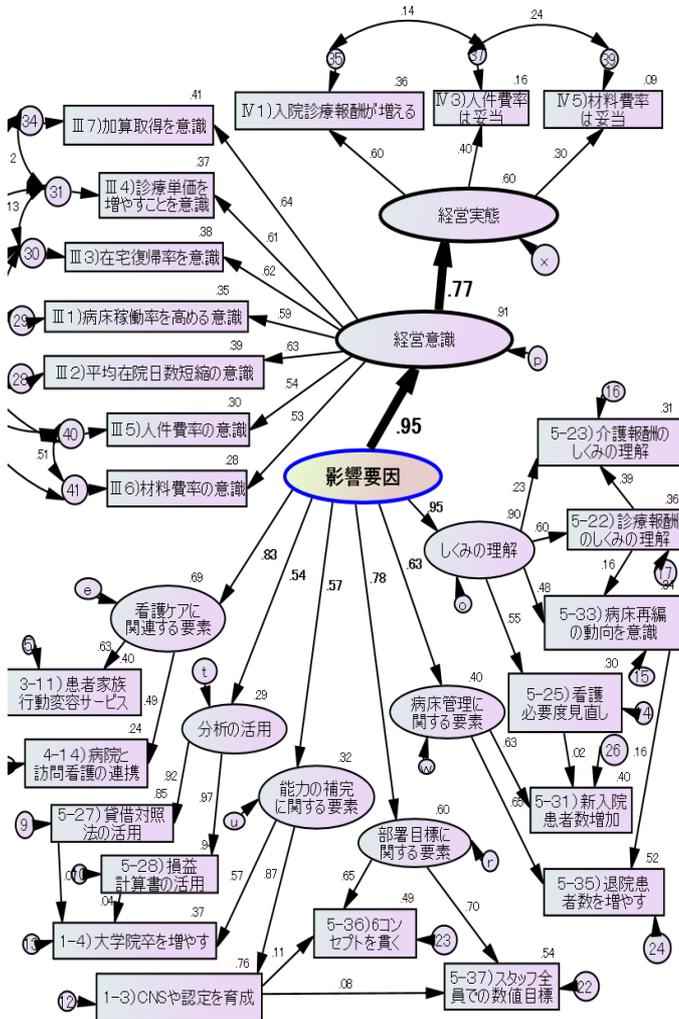


図3 経営実態と経営意識と影響する要因の関連

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計0件)

[学会発表](計1件)

森木妙子、看護師長の経営意識に影響を及ぼす因子の抽出、第35回日本看護科学学会学術集会、2015、12、5~6、広島国際会議場、広島市文化交流会館、JMS アステールプラザ(広島県広島市)

[図書](計0件)

[産業財産権]
出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

森木 妙子 (MORIKI, Taeko)

高知大学・教育研究部医療学系看護学部門・教授

研究者番号：60380317

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし